

## 巻頭言



# 本会の「創立 50 周年記念誌」を通読して

柘 植 新

本会は最近創立 50 周年を迎え、その記念誌が本誌「ぶんせき」の号外の特集号として昨年の 6 月に刊行され、全会員のもとに届けられた。これまでも、創立 10 周年（1963 年）および 30 周年（1983 年）に、それぞれ記念誌がハードカバーの立派な装丁で刊行されたが、それらはいずれも然るべき価格で別売されたこともあって、それほど多くの会員の書棚に並ぶには至らなかった。

今回の「ぶんせき」特集号という企画は、もとを<sup>ただ</sup>を<sup>ひょうたん</sup>糺せば「瓢箪から駒」とでも言うべきものであったとのこと。本会の創立時代からの「生え抜き会員」の一人である田中誠之名誉会員を長とする当該記念誌の編集委員会が発足した 1998 年頃の本会は、バブル崩壊後の経済不況のあおりもあって（現在もそこを<sup>あえ</sup>抜けきってはいないが）、これまでにない財政難に喘いでいた。そういう状況下で経費節減を旨とする窮余のアイデアとして、ソフトカバーの「ぶんせき」特集号の企画が案出された経緯が、その編集後記でも述べられている。結果的には、全会員のもとに記念誌が「無料」で届けられることになり、その出来映えの<sup>あいま</sup>見事さと相俟って、会員の皆さんから大変好評を得ているようである。記念誌編集委員会の方々のご苦勞と卓抜した着想に敬意を表し、併せて深甚なる謝意を述べたい。

さて、当該記念誌はその前に刊行された 30 周年記念誌の続編の形式を取りながら、前半ではそれ以降 20 年余の本会の歩みが詳細にまとめられており、後半の「記念寄稿」の部では、本会の最長老の一人である木羽敏泰名誉会員（1913 年お生まれ）等のご健筆を筆頭に、そこから約半世紀にわたる世代の方々の総計 70 編に及ぶ会員諸氏からのご寄稿が載録されている。それらの内容は「歩みを振り返って」（会長経験者・永年会員）、「分析化学の歩み」（50 歳以上で現役の会員）、そして「未来を夢見て」（若手の会員）の三つに大別して編集されている。また、様々な研究会や年会などのエピソードを紹介するコラムも随所に紹介されている。さらに、本会の発展に大きな貢献をしてこられた日本分析機器工業会と日本試薬協会からは、それぞれ分析機器と分析試薬をめぐるこの間の進歩をまとめた貴重な寄稿もしていただいた。これらには、本会の創立以来の半世紀にわたる歩みが、様々な角度から生き生きと立体的に活写されており、それらは本会の第一級の貴重な資料集であるのみならず、本会の来し方を顧みて、今後の在り方を考えていく上でも示唆に富んだ提言の宝庫である。

当初の会員数が 591 名であった本会も現在では、個人会員、維持会員等を含めて 8500 名余を擁する大きな学会に成長してきたが、長引く経済不況や少子高齢化などの社会構造の変化が進む中で、会の規模や運営方法、そして果たすべき役割等についても時代の要請に見合った脱皮・衣替えをして行くことが求められている。こうした変革期にあっては、会員の英知を集めて<sup>こころもが</sup>編纂された本記念誌は羅針盤の一つとして、常に座右に置き広く活用されるべきものであると思う。

〔Shin TSUGE, 名古屋大学名誉教授, 日本分析化学会会長〕